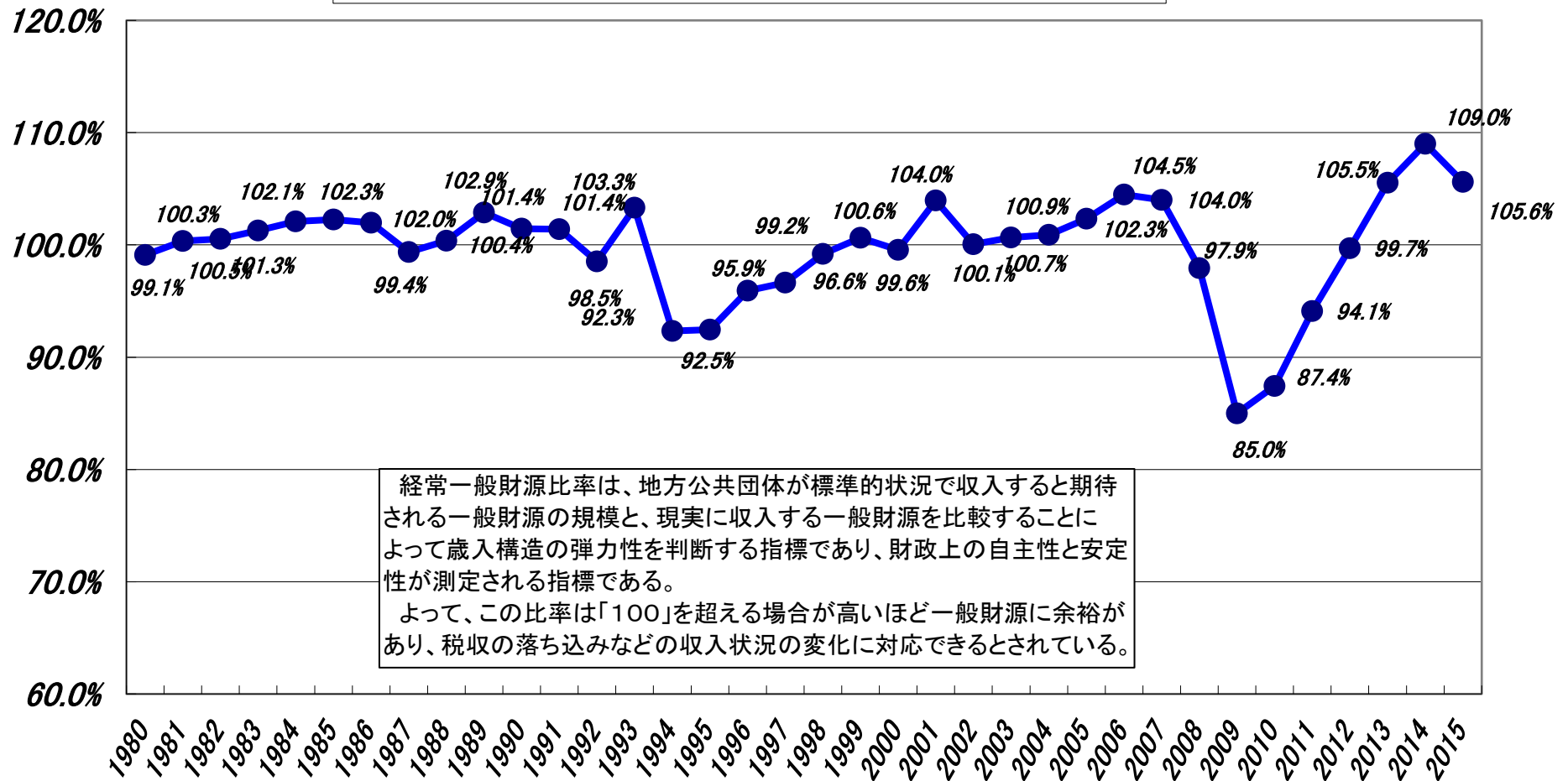


経常一般財源比率(経一財/標財規)



経常一般財源比率は、地方公共団体が標準的状況で収入すると期待される一般財源の規模と、現実に収入する一般財源を比較することによって歳入構造の弾力性を判断する指標であり、財政上の自主性と安定性が測定される指標である。

よって、この比率は「100」を超える場合が高いほど一般財源に余裕があり、税収の落ち込みなどの収入状況の変化に対応できるとされている。